



ここは、
わたしが選んで、
立つ場所だ。

μΦ+工房
AI × Thought × Boundary

本島の端っこで

わしは今日も、
ここから海を眺めておる…。

足元から広がる海と、
対岸に見える島。

その島に繋がる、長い大きな橋。

橋を渡る人の営みは途切れることもなく、今日も人たちの息遣いを感じる。

空が青いなあ。
今日はいい天気だ。

ここは、いつも風が強い。
寒い季節になると、風が強くなる。

人たちは、襟を立てて顔を伏せる。

わしの前を通り過ぎる人の、顔がわからなくなる季節だの。

だが、花さんはわしの前でお辞儀をする。

この道を通るときは、いつもペコリと頭を下げる。

だから、わしも挨拶を返す。

——おお、花さん。今日も寒いのう。
風邪引かんよう気をつけて帰るんじゃぞい。

花さんは、この道を通って仕事に行く。

本当の名前は知らんがの。

腕に下げる小さいカバンに花がついておるから“花さん”と、わしが勝手に呼んでおるのじゃ。

いつも同じカバンでの。
何の花かは、知らんがの。

今日は海がキラキラしておるのう。
風に煽られても、波は高くない。

箱を詰んだ船が、ゆったりと目の前を通り過ぎていく。

行ったり来たり、船の往来。

船はいいのう。

橋を行き交う自動車のように、忙しくないところがいいのう。

橋をくぐる、たくさんの船。

のんびり眺めて日が暮れる。

陽が隠れる頃に、お月さんが顔を出す。
橋の向こうから、顔を出す。

おお、
もうまん丸のお月さんの頃じゃったか。

見事なもんじゃの。
よおく見えるぞい。

むかし人たちは、このまん丸のお月さんを見ると、喜んで、踊っていたのう。

綺麗な、ベベを着て、踊っていたのう。

わしが眺めてきたこの場所は、
少しずつ、少しずつ、
その姿を変えてきた。

あの橋がなかった頃…。
あの建物がなかった頃…。
あの船がなかった頃…。

わしはずっと、眺めてきた。

お日さんと、お月さんと、この海は、
変わらんがの。

今日は何だか辺りが騒がしいのう。

人たちが行ったり来たり。
わしの周りで集まっておる。

わしは思い出した。

…ああ、もう、その時期がきたのかの。

寒い季節の、この頃の。
一年に一回、人たちが集まる。

わしの周りに集まって、何やら祈りを捧げるようじゃ。

わしの前に一人の神主さん。
海にも、小舟に乗った二人の神主さんに挟まれる。

わしは祈りの言葉を聞く。

人たちは、わしに災いを無くしてほしいと祈るらしい。

わしは、聞くだけじゃがの。
長い事、聞くだけで過ごしてきているのじゃがの。

祈りが終わると、神主さんはわしの頭に
乗っかるんじゃ。

よろよろと、おぼつかない足取りで、
毎年、この時、わしがハラハラするところじゃ。

そしてわしの頭に縄を掛けていく。
わしの頭をぐるりと縄で巻いていく。



ちょっとした帽子のようなんじゃ。
毎年、この時期だけ、わしは着飾る。

その後がお楽しみの時間じゃ。

神主さんは、縄の周りに酒をかけていく
んじゃよ。

わしに酒を飲ませてくれる。

極上の日本酒じゃ。
甘い香りが立ち込める。

ああ、美味しいなあ。
酒は美味しいなあ。

通りの向こうに花さんが見える。

最近、トンと姿を見なんだが、元気そう
じゃの。

花さんがわしに手を合わせておる。
わしは、花さんの姿に心を合わせる。

わしはただ、
ここにあるだけなんだがの。

人たちの望みを叶える力なぞ、
持ち合わせておらなんだがのう。

ああ…。
でも…。

この美味しい酒が飲めるように…。
いつまでもこの景色を眺めていられるよ
うに…。
ちょっと、わしも、願ってみるかのう。

愛おしいこの世界の安寧を。

<本島の端っこで、平和をつぶやく岩……>
2026年1月4日ブログ公開

この作品について

この作品は、創作サイト<μΦ+工房>
の「書店コーナー」に掲載した「ミニス
トーリー⑤」作品になります。

じつは、この話、
実際にわたしが移住した下関市にある
「しめなわ祭り」をモデルに書いたお話
でもあります。2025年の12月に実際に
見に行きました。

「しめなわ祭り」とは？

「壇之浦海中の大石に神官がしめなわを
張る神事。昔、大雨、台風、火災、疫病
と悪いことが続いたとき、神が倒れてい
る大石を起こせば災害がなくなると告げ
られ、この大石を起こしたところ災害が
なくなったという故事に由来している。
関門海峡の冬の風物詩として有名」



この祭りを知った時、新海誠監督の「すずめの戸締り」という作品を思い出しました。

災いを封じる儀式。

これだけが共通点なんですけど…

この様なお祭りは日本全国にあるようで、現代日本人の無意識にある自然信仰の根底とは、こういうところからも育っているのでは？と、思いました。

このお祭り、規模は大きくありません。祭りといっても、出店や、神輿はありませんでした。

集まった観衆も20人前後だと思います。

儀式を行う神主さんが、陸と船から現れ、岩を挟んで祈禱をする姿が珍しかったです。

最後に陸にいる神主さんが、梯子を使って岩に登り、しめ縄をかけてその周りに日本酒をかけていました。

この時のお酒の香りが、離れた場所から眺めている私の鼻まで届いた時、この物語が生まれました。

岩が本当に、美味しそうに感じているように見えたので…w

毎年12月に行われるお祭りのようなので、今年（2026年）もぜひ、拝見したいと考えています。



自己紹介

はじめまして。

このブログの工房主を名乗っている
『伊賀ひぬこ』と申します。

私は特別な才能も、派手な経歴も
持っていません。

高卒・元主婦・バツイチ…
～からのお、地方移住。

ちょっと、
異色な経歴の持ち主です。

そして現在、還暦間近でありながら
クリエイターとして活動中。

結婚前に、趣味で同人活動していた昭和のオタクです。

かつて胸の奥にしまい込んでいた作品たちを、もう一度外の世界へ
“好き”を続けて広げていけば、人生はまた色を取り戻す。

ここで、人間として生まれてきたことを、楽しむために生きてみたい。

再出発のアラ還クリエイターです。
どうか、応援よろしくお願ひします。

境界線の上で、人間を楽しむサイト

μΦ+工房

思考 x 境界 x AI



サイト名は【みゅうふあいくろすこうぼう】と、読みます。

μΦ+工房とは？

人間とは何かを、AI時代の境界で観測する創作拠点

🧠 思考の境界線

人間とAI、そのあいだにある問い

🎨 詩と画像の世界

言葉と光で描く、もうひとつの現実

📖 連載小説

「青い瞳は虚空を見つめる」
見える者だけが触れる、“境界”の
ミステリー

📝 ミニ・ストーリー

日常の裏側にある、もうひとつの
視点



muphi-kobo.com



@pinuko_iga



PINUKO_IGA